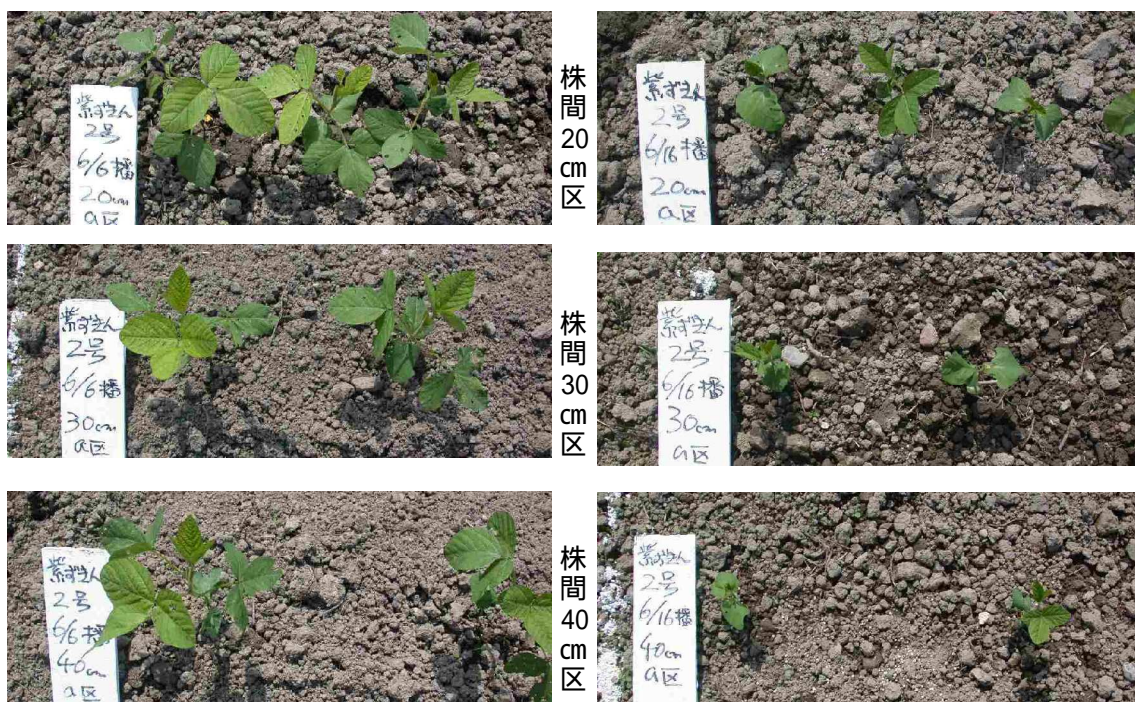


## 「紫ずきん2号」の安定生産に向けて

「紫ずきん」よりも早生で、ウイルス抵抗性を有する「紫ずきん2号」は、既存の「紫ずきん」・「新丹波黒」と組み合わせて、収穫期の分散を図りつつ規模拡大できることから、本年度約9haが作付されることとなり、前年比約2.3倍と大きく増えました。

今年度は、「紫ずきん2号」の安定収量を得るために、9月上旬から「紫ずきん」収穫開始期(9月下旬)までの収穫期となる作期において、最適な栽植密度を検討するとともに、追肥やマルチの効果についても調査を行います。



6月6日播種移植栽培区

6月16日播種移植栽培区

播種期が異なる「紫ずきん2号」の生育状況(7月1日撮影)

左が6月6日播種、右が6月16日播種したもの。今後、6月26日に播種したものも同様に移植する。